

# 元んしんぼんり



クリスマスローズ

今	体腔液中の腫瘍細胞	(1)	声 (会員の先生方から)	(4)	
回	検査情報 (血清カリウム値について)	(2)	メ	モ (施設内勉強会)	(4)
の	検査 Q & A (福岡市の子宮がん検診)	(2)	編集後記	(4)	
紙	センター紹介 (抗酸菌検査)	(3)	中綴じ (-病態へのアプローチ)		
面	ひろば (電子カルテ)	(3)			

## 体腔液中の腫瘍細胞

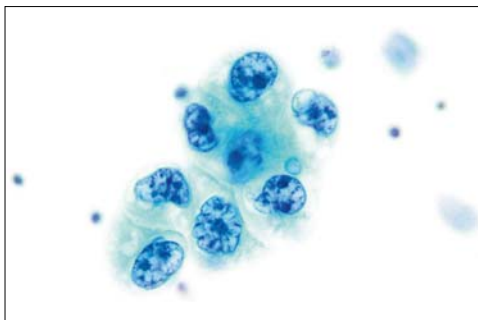
### *Tumor cell in body vaginal fluid*

胸水・腹水などの漿膜に覆われた体内の腔に貯留する液体を体腔液といいます。体腔液が貯留する状態は、腔水症と呼ばれ、その原因は、心不全・腎不全・肝硬変などの非腫瘍性疾患による場合と、悪性腫瘍による場合とがありますが、両者の鑑別には細胞診検査による悪性細胞の検出が有用となります。

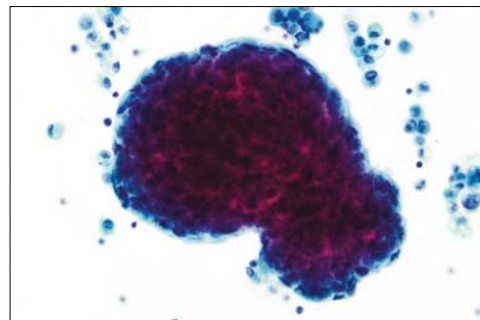
体腔液中に出現する腫瘍細胞は、ほぼ唯一の原発腫瘍といえる悪性中皮腫 (0.5%程度) を除くと、残りの99.5%は体腔以外の臓器から転移・浸潤した腫瘍に由来します。転移しやすい腫瘍の頻度は、体腔別、性別、年齢 (成人/小児) によって異なり、胸水では、肺癌、胃癌、乳癌、食道癌が、腹水では、胃癌、卵巣癌、膀胱癌、大腸癌が、また小児では、白血病やリンパ腫等の血液疾患や小細胞腫瘍が多くみられます。組織型別にみると、腺癌が最も多く、胸水:80%以上、腹水:50~70%を占めており、その他、扁平上皮癌、未分化癌、肝細胞癌、悪性リンパ腫、白血病、腹膜偽粘液腫などがあります。一般的に、分化度の低いものほど体腔液に出現する頻度が高いです。

腺癌細胞の細胞像は、孤在性~集塊の癌細胞が混在する 경우가多く、核偏在、クロマチン増量、不均等分布があり、類円形で大型の核小体が1~数個見られます。胞体はライトグリーン淡染性、泡沫状でしばしば空胞を認め、体腔液中に浮遊したため集塊が球状になる傾向があります。

特徴的な、印環細胞 (低分化型胃癌に多い)、高円柱状の腫瘍細胞 (大腸癌)、マリモ状集塊 (乳癌に多い)、石灰化小体・偽線毛 (卵巣漿液性腺癌)、ミラーボール状集塊 (卵巣明細胞腺癌) などが認められる場合には原発巣の推定が可能ですが、細胞像は原発巣だけでなく、腫瘍の分化度、組織型によっても異なるため、推定が困難なことも少なくありません。



胸水 腺癌細胞 (×40)



胸水 腺癌細胞 (乳癌転移、マリモ状集塊 ×10)

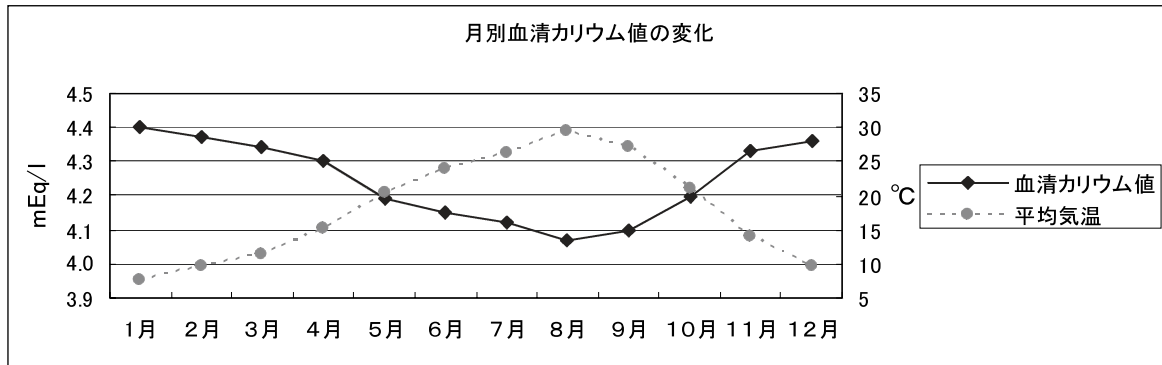


## 検査情報 血清カリウム値について

毎年冬場になると、先生方よりカリウム（K）のデータが高いのでは？との問い合わせを受けます。カリウム値が高くなる要因として、次のような事が考えられます。

### 長時間の全血冷蔵保存・・・採血後、検体を全血のまま長時間冷蔵保存されていませんか？

採血後、全血のまま放置すると、血球内から血清中にカリウムが漏出して高値となります。特に長時間冷蔵温度に置くと顕著に上昇します。冬場は室温が低下するので注意が必要です。



\*血清カリウム値:平成19年の平均データ(当検査センター)

\*平均気温:気象庁統計データ(福岡市)

### 検体の溶血・・・報告書に溶血のコメントが記載されていませんか？

生体内カリウムの約98%が細胞内に存在し、細胞外液中には約2%しか存在しません。したがって血球内では血清中に比べかなり多量に存在します。わずかな溶血でもカリウムが高値になることがあります。

### 採血方法による影響

採血時に、手を開いて再び握る動作（クレンチング）を繰り返したり、駆血帯で腕を強く圧迫してからの採血によりカリウムが高値になることがあります。これは、手の筋細胞から一時的にカリウムが放出され、静脈中のカリウム濃度を一過性に上昇させるからです。

以上のような要因で、血清カリウムのデータは変動します。カリウムのデータをご覧になる際の参考にしてください。

## 検査Q&A

**Q：福岡市の子宮がん検診について教えてください。**

**A：**子宮がんには「子宮頸がん」と「子宮体がん」があり、福岡市で実施している子宮がん検診は、子宮頸がんに対する検診で、その内容は、問診・視診、細胞診です。福岡市在住で勤務先等で検診を受ける機会がない20歳以上の女性が対象で、実施登録医療機関や保健福祉センターにて、2年に1回受診できます。

細胞診（子宮がん検診申込書と塗抹標本）を当検査センターへご提出ください。



病理・細胞診検査室 山村 智美  
(平成16年入職)

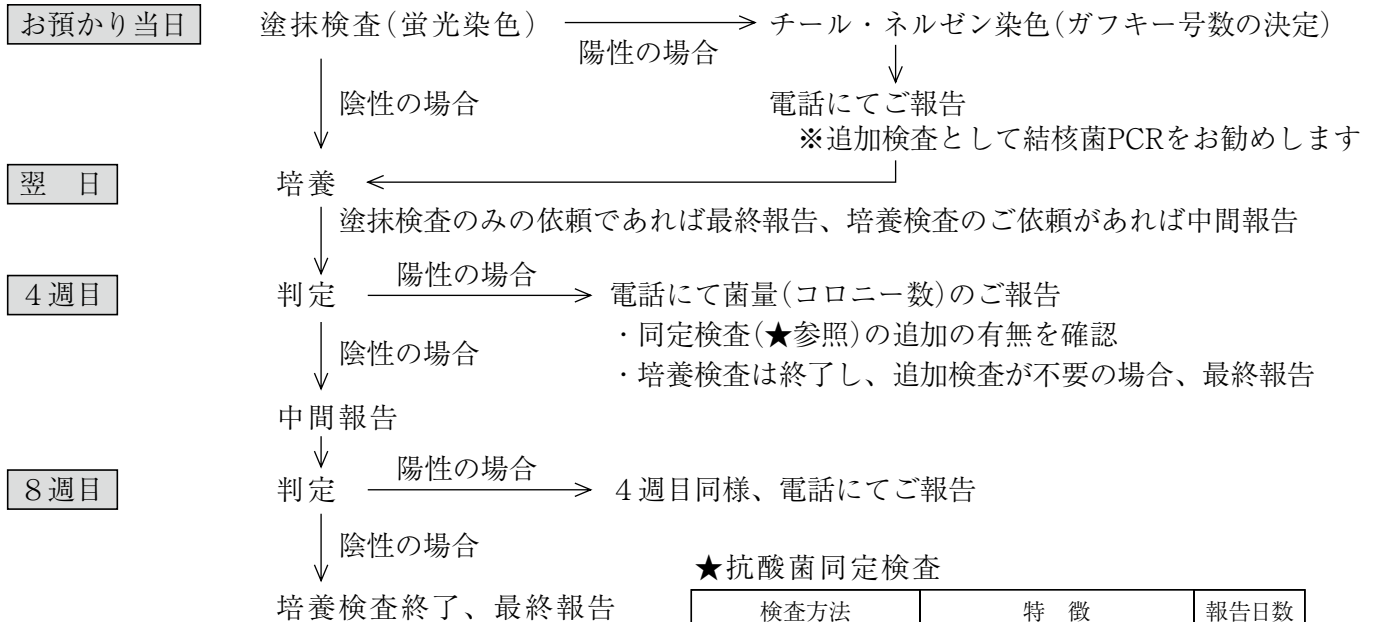


## センターご紹介

抗酸菌検査・このように進めています!

結核は年々減少傾向にありますが、これとは逆に非結核性抗酸菌症は増加しています。抗酸菌を分離して、それが結核菌か非結核性抗酸菌かを鑑別することは、感染対策上とても重要です。

細菌検査室では、一般細菌の他に抗酸菌の塗抹検査、培養検査、及び感受性検査を実施しています。今回は、当センターに於ける抗酸菌検査の検体受付から結果報告までのおおまかな流れについてご紹介します。



### ★抗酸菌同定検査

検査方法	特徴	報告日数
結核菌抗原精密測定(キャピリアTB)	結核菌群と非結核性抗酸菌の鑑別が可能	1日
結核菌PCR	結核菌を検出	2~4日
アビウム・イントラセルラー	主要な非結核性抗酸菌2菌種について同定が可能	2~4日
抗酸菌群核酸同定精密検査(DDH)	抗酸菌18菌種の同定が可能	4週間

※抗酸菌は一般細菌と比べて発育が非常に遅く、培養に多くの時間を必要とします。発育状態によっては、上記の様なご報告が出来ない場合もありますのでご了承ください。また、ご不明な点がございましたら、細菌検査室までお問い合わせください。(TEL 092-852-1506 内線2557)

## ひろば

### 【電子カルテ】

政府は、平成13年度の「保健医療分野の情報化にむけてのグランドデザイン」で、電子カルテシステムの普及は医療の質と効率の向上に寄与するとして、平成18年度までに入院ベッド数400床以上の病院および全診療所の6割以上に電子カルテシステムを普及させる、という目標を掲げました。しかし、電子カルテシステムの平成17年10月1日時点における普及率は、病院全体で5.2%、400床以上の病院で16%、診療所全体では6.3%と、政府の目標とは大きく乖離しています。普及が進まなかった要因は、導入によるメリットが明確でなかったことがあげられます。

So-net M3サイトに、「電子カルテ購入調査」という記事がありました。それによると、過去3年以内に購入した電子カルテは、1位:三〇電機(Medicom-HR)、2位:ダイナ〇クス(Dynamics)、3位:BOJ(Medical Station CLINIC)だそうです。

意外だったのは、ダイナ〇クスが2位という結果です。こんなことを言うと、作者の吉原正彦先生(吉原内科クリニック:東京都日本橋)に怒られるかもしれませんが、診療する医師の目で作ったソフトは、医師にとって使いやすいものだったのでしょう。

しかし、票数が少ないものも合わせると30以上の製品名があがっています。回答数が573名と少ないのに、これだけバラエティに富んだ電子カルテ名が出てくると言うことは、それだけ汎用的な電子カルテ開発が難しいことを物語っています。



文責: 電算課長 古川 資啓

## 声



昭和45年(1970年)開業の結構古株です。当時の中央区の医師会病院時代から検査をお願いしていました。私の記憶によれば、複写できる紙に手書きでデータが書き込まれていたようです。「至急」の場合も今のようなL-NETもFAXもなく電話による聞き取りであったように思います。時間外になっても良く対応していただいていたと思います。

サービスとは正確性とともにも迅速性も求められます。担当の係員の方々にはいつも心から感謝をしています。然しどんなに急ぐときもどうか安全運転に気をつけられて、どうか事故のないようにお願いいたします。

昭和58年医師会病院が現在地に移転し、成人病センターとなった後は次第にインフラも整備強化され、更に検査センターが現在の医師会館建物に移転してからは、L-NETも次第に内容も進化し、カラー表示、折れ線グラフによる分かり易いデータ表示が簡単に出来るようになり患者さんに説明する際の説得力のあるツールとなっています。この点も今後の発展進化を期待しています。

集配で回られる方の大きな明るい声は、周囲に元気を残して行かれます。これからも続く「非常事態」に立ち向かうべく力を合わせて頑張りましょう。

最後にお願ひがあります。検査法の進歩は目覚ましく、L-NET上で項目をクリックすれば凡その検査の意義の説明が出てきます。患者さんへの説明の際にも良く納得していただき好評です。ところが、新しい検査法の開発のスピードが速く、L-NET上へのアップが間に合いません。「手引き」を見れば分かるのですが、説明が医療関係者向けなので、患者は怪訝な顔をされることが多いです。どうか宜しくご指導賜れたら幸甚です。

終わりにになりましたが、福岡市医師会臨床検査センターの益々の発展を祈念して筆を擱きます。

早良区野芥3丁目14-5  
医) 草創の会草野医院 院長 草野忠良

## メモ

**施設内勉強会** 臨床検査技師・営業担当者向(参加要予約)

「症例検討」	1月28日(水)	16:00	於) カンファレンス室
「症例検討」	2月25日(水)	16:00	於) カンファレンス室

**会 議**

第80回接遇委員会	2月4日(水)	13:00	於) 第一会議室
第25回安全衛生委員会	1月15日(木)	13:30	於) 第一会議室
第34回臨床検査センター経営効率化委員会	1月29日(木)	11:00	於) 第二会議室
第36回臨床検査センター利用促進会議	1月16日(金)	11:00	於) 7F事務局

**編集後記** 新年あけましておめでとうございます。

ご存じかも知れませんが、今年の干支である牛が登場するエピソードをひとつご紹介します。18世紀、イギリスの医学者エドワード・ジェンナーは天然痘の流行を防ぐために、ウシの天然痘である牛痘の膿を健康人に接種する種痘を考案しました。種痘は世界中に広まり、時を経た1980年にWHOは天然痘根絶を宣言!しました。ちなみに、ジェンナーの行った種痘が予防接種のはじまりといわれています。

表紙のクリスマスローズについて・・・重咲きのバラにも似た白い花です。花の名は、花がクリスマスの頃に咲くことからつけられました。イエス・キリストが生誕した時、羊飼いがみんなでお祝いを持って駆けつけました。ある貧しい娘は、花を捧げようと思いましたが、雪ばかりの野原には花など咲いていません。途方に暮れていたら、天使が舞い降りてきて雪の下から白い花を探し出してくれました。それがクリスマスローズだったとのこと。学名のヘレボルスは、ギリシャ語の「ヘレイン」(死に至らしめる)と「ポーラ」(食べ物)からできました。古代ヨーロッパでは、この花の香りは病人から悪臭を除くとされ、ギリシャでは狂人を正気に戻すとか、憂鬱を追い払うとかいわれていました。そんなところから「私の心を慰めて」という花言葉が生まれたのかもしれない。根に毒があるせいか、あまりよいイメージはありませんが、この草の毒は少量なら刺激剤にもなるとされ、悪いことばかりでもありません。

原産地：中央アジア、地中海沿岸 花言葉：私の心を慰めて、追憶 開花時期：12～2月

最盛期：1月 花色：白 花持ち：1週間程度

編集委員 諫山 修 大塚英樹 椎葉 満 井原慎治 林 隆三 西尾美紀子

〒814-0001 福岡市早良区百道浜一丁目6番9号

**福岡市医師会臨床検査センター** TEL(092-852-1506) FAX(092-852-1510)  
<http://www.city.fukuoka.med.or.jp/kensa/kensa.html> E-mail: fma@city.fukuoka.med.or.jp